

# アビタス通信

A b i t u s P r e s s

# vol. 26

January 2013

Abitus

Globalization

## グローバル人材へのパスポート 目指せ!USCPA (米国公認会計士) への道

株式会社アビタス 代表取締役  
米国公認会計士・公認内部監査人  
三輪 豊明

### グローバル人材に求められる能力とは?

今日、グローバル化という言葉を開かない日はありません。地球の裏側の国や地域の経済状況が、すぐさま世界中に大きな影響を及ぼすのを私たちは日々、体験しています。企業活動の場にも、もはや国境はありません。規模の大小を問わず、多くの企業が国境を越えてビジネスを行い、東京から大阪に出張する感覚でアジア各国を往復するビジネスパーソンも増えています。これまで海外派遣とは無縁だったポジションの人も海外拠点に派遣されるようになっていきます。

人材のグローバル化が本格化した今、経営やビジネスに関して世界の人と同じ土俵で議論できる専門知識と英語力が不可欠です。英語に関しては、日本語環境下と同じレベルで外国人の部下をマネジメントすることも求められます。そして、専門知識も、グローバルに通用するスタンダードを学ぶ必要があります。

例えば、世界の三大会計基準といえば、米国会計基準 (USGAAP)、国際会計基準 (IFRS)、日本基準と言われますが、日本基準が使われているのは日本国内だけです。加えて、今後、主要国の会計基準の内容が IFRS に統一化される方向にあり、米国会計基準もその方向に進んでいます。

### ビジネスの三種の神器を網羅する

そうした中で、注目を集めているのがグローバルビジネスに不可欠な幅広い専門知識と英語力を同時に身に付けられる米国公認会計士 (USCPA) の取得です。公認



会計士と言っても、日本の公認会計士とはずいぶん異なります。日本の公認会計士は、監査業務に就く人がほとんどですが、アメリカでは CPA 取得者で監査業務に就く人は4割に過ぎません。残りの約半数は事業会社や公官庁など幅広い分野で活躍しています。経理・財務部門だけでなく、欧米では財務は経営の基本ですから、例えば営業関係や技術関係のマネジメント層もマネジメントの基盤として財務の知識を得ています。CPA の合格者は、高い会計知識や、IT をはじめとするビジネス知識、そして専門分野についての英語力を備えている人材として、日本国内外のさまざまな分野で活躍しています。

USCPA はアメリカ国内だけでなく、世界中の人を対象に、国内外で英語による試験を実施し、相互認証によって海外でも監査業務に従事できる「グローバル CPA」です。試験はコンピュータ化され、2011年8月より日

## だからUSCPAは世界中で通用する!

### ビジネス知識の宝庫

- 経営判断、企業分析に不可欠な「会計知識」
- 現代の業務フローを理解するために必要な「IT知識」
- 会計用語、ビジネス用語に関する専門的な「英語力」

### グローバルビジネスの現状に対応する

- 今後、主要国の会計基準がIFRSに統一化される見込み
- 「会計」という分野が世界で共通化
- 会計士資格の相互承認で、グローバルに活躍できるチャンスも

本及び中東諸国で、2012年2月からはブラジルでもUSCPA試験の受験が可能になりました。カナダ、メキシコ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド、香港の会計士協会と相互承認しています。シンガポール会計士協会とは、米国公認会計士ライセンス持者が、シンガポールで5日間の研修を受講し、シンガポールの税法等の試験に合格すればシンガポールCPA資格を取得することができる枠組みも構築しています。

従来、会計プロフェッショナルを目指す場合、自国の会計士資格を取得するのが当たり前の道でした。しかし、今後は、グローバルなキャリアを目指す人の場合、まず、USCPAに代表される「ハブ」となるグローバル資格を取得し、その後、相互承認の仕組みを利用して、ローカル資格も取得していく方法も可能になってきました。

CPAの試験は、財務会計、管理会計、会計監査に加え、IT、内部統制、コーポレート・ガバナンス、ファイナンス、経済学など、ビジネスで必要となる知識の全体像がコンパクトにまとめられています。

著名なビジネスコンサルタントなどによれば、「会計 + IT + 英語」は、ビジネスにおける三種の神器と呼ばれています。これらは、専門職として活躍する場合はもちろん、あらゆるビジネスパーソンにとって、どこでも通用する有益な知識です。CPAは世界中で通用するマネジメントスキルとして、グローバル人材養成が求められるいま、日本でも注目を集めているのです。

### 多様な働き方を可能とする

CPAとは、Certified Public Accountantの頭文字をとった略称で、文字通り「公認された (Certified) 会計士」を意味します。「公認」するのは、米国各州の

政府です。米国はご承知のように、消費税や法律なども州によって異なり、州が1つの国のような形をとっている「合衆国」です。その州政府が認定する会計士の資格がCPAです。

CPA試験は、全米統一の試験です。4科目の選択式試験で科目別受験が可能です。各科目の合格率は、全米平均で40%台です。日本の公認会計士試験とは試験方法や合格率に差がありますが、CPAの水準が日本の公認会計士と比べて低いと考えるのは大きな誤解です。その差の原因は、資格試験に対する考え方の違いにあると考えられます。

日本の公認会計士試験は、合格者の定員を絞った競争試験、すなわち「落とす試験」であり、入り口を狭き門とすることで、プロフェッショナルの水準を保とうとしているようにも感じられます。一方、CPAは「落とす試験」ではなく、「スタートラインに立たせる試験」なのです。

英語の試験で専門知識が要求されるからといって敷居が高いと感じる必要は無用です。試験は英語ですが、日本語で勉強したほうがはるかに効率は上がります。それは私自身の経験からも明らかです。働きながら限られた学習時間で合格を目指すには、効率は何より重要です。インプットは日本語、演習問題などのアウトプットは英語という学習を繰り返すなかで合格に必要な専門知識と英語力が身に付いていきます。

CPA試験合格までに必要な勉強時間は、通常700時間から1,000時間です。仕事をしながらの取得が十分可能です。CPAには4つの科目があり、1科目ずつ合格していけばいいので、仕事を抱えながら夜や土日を利用して勉強できます。また、合格を目指している人の多くは、会計とはまったく関係がない職種の人の方がずっと多いのです。このように、会計の知識がなくても、仕事と並行させつつ、英文会計の基礎を一から勉強しても多くの人が合格しています。

CPA試験は英語による出題ですが、英語力については、TOEIC400～500点程度の英語力があればチャレンジできます。習うより慣れろで、勉強を進めていくうちに必要な英語力は身につけてしまいます。CPA向けの勉強をすることで、TOEICのスコアも平均で200点ほど伸びています。説明や設問形式は定型的なものなので、事前にパターンを覚えておけば心配ありません。問題の本文は勉強した専門用語がわかれば読解できます。解答はほとんどが4択式で、それ以外の問題でも、プルダウンの選択式で文言を入れる問題など、高い英語力が

問われる試験ではありません。面接試験はありませんから、英会話は苦手でも、一定水準の読解力があれば合格できます。

### USCPA試験の概要

CPA試験は、2004年4月よりペーパーベースの試験から、コンピュータベースの試験に移行しました。受験者はコンピュータ上に表示される問題に対し、解答データを打ち込んで行きます。

試験のコンピュータ化は、受験者に大きなメリットをもたらしました。1科目ごとの科目受験や科目合格が認められ、さらに受験日や受験地を自由に選択できるようになったのです。これにより、仕事と両立しながらの学習や受験が格段に容易になりました。

また、受験会場も広がり、2011年8月より、東京、横浜、大阪の3カ所で受験できるようになりました。受験可能期間は、米国内で受験する場合と同様で、1～2月、4～5月、7～8月、10～11月の8カ月間です。

以前は、グアム会場やハワイ会場まで渡米しなければ受験できず、渡航費や滞在費が大きな負担となっていたため、通常一度の渡米で複数科目受験していました。日本で受験できるようになって1科目ごとの受験が増えると、受験直前、1科目の学習に専念できるので、日本人受験者の合格率が上がりつつあります。

### スキルアップ・キャリアアップを目指して

——広がるUSCPA活躍の場

企業の採用担当の方や教育担当の方、そして各部門の方々のお話を伺っていて皆さんが強調されるのが、「グローバル人材」の必要性です。厳しい雇用状況にあって、人材採用は、買い手市場にもかかわらず、「グローバル人材が不足している。グローバル人材をどうやって育成すればいいのか」という声を、多く聞きます。

とくに急激に進む円高の下、大企業だけでなく中小優良企業でも海外進出や海外企業とのM&Aの動きは枚挙に暇がありません。

また、日本にあっても世界の投資家や顧客に向けて情報を開示、発信しなければならない時代です。そうしたグローバル化への対応は不可欠です。もっと言えば、資格の競争もグローバル化の兆しを見せています。CPAという資格が、そうしたグローバル時代の要請に応えるものであることは、ここまでお読みいただいた方には、おわかりいただけたと思います。

CPAの受験者の多くは働きながら学習して、スキル

アップ、キャリアアップを目指しています。受験者の数も年々増加傾向にあり、資格取得を奨励する企業も増えています。コンサルタント会社や法律事務所、メーカーの内部監査室で活躍している方、経理・財務分野での専門性を高めている方、日本企業の海外子会社で資格を活かしている方など、CPA資格取得者の活動の場は更に広がっています。

英文で会計実務ができる人の絶対数が少なく、求人ニーズにこたえられる人材が不足しているため、CPA試験に合格している人は有利です。実務経験がなくても、CPA試験合格者だというだけで、応募書類上の評価は飛躍的に高まります。もちろん、CPAの学習内容について実務経験を有しているに越したことはありませんが、会計は学習と実務が比較的近い特殊な分野で、実務経験のなさを資格でカバーできる面があります。

### 私がUSCPAに惹かれた理由

私がCPA試験に挑戦したときのことをご紹介します。15年以上も前のことですので、変わってしまった部分も多くありますが、基本的な部分は現在の試験においても変わっていません。一例として参考にしていただければ幸いです。私は、東北大学経済学部を卒業後、米国のカリフォルニア大学サンタバーバラ校に留学し、会計学を専攻しました。もちろん、その時点ではCPA受験など頭にありませんでしたが、後年CPAの受験学習に取り組んだときには、このとき学んだことが大いに役に立ちました。

その後、日本の大手証券会社に就職して少し勤め、ある日本の大手通信機器メーカーに転職しました。初めはアメリカに2年駐在して、日本に戻って本社勤務となりました。次に香港に3年行き、また日本に戻ってからしばらくして、北京へ最後の海外赴任をしました。北京駐在時、自分の道を考えたいという思いから会社を辞め、日本に戻ってきました。そんな私がCPA受験を思い立ったきっかけは、新聞で見た日本人CPA合格者のコラム記事でした。CPA資格は、米国駐在時から知っていましたが、日本人は受験できないと思っていました。新聞記事で日本人でもCPAを受験できることを知り、それならひとつチャレンジしてみようという気になったのです。それが7月の初めでした。

私の場合、試しにまず財務会計の学習だけ先行してやってみました。やってみると私にとっては非常に楽しいものであることがわかりました。日本の会計は、大学のときに授業でとったことがありますが、細かい仕訳な

## 大きな流れの総決算 ユニバーサルデザインプロセスへの参加を

### 「あいうえお」の学習開始はお早めに

——日本へのIFRSの導入をどのようにとらえていらっしゃるでしょうか？

**最首** 2000年頃から日本の会計は大きく変わり始めました。会計ビッグバンから国際ルールを取り入れるようになり、その大きな流れの総決算がIFRSの導入です。実質的な変化はすでに80～90%が過ぎ去りました。ここまでの変化に比べれば、これからの変化は相対的に小さなものです。ここまでを乗り越えてきた熱心な私たち日本人の会計人（経理・財務関係者）を持ってすればなら臆する必要のあるものではないと思っています。

——独自のアプローチによるIFRS導入セミナーが好評ですが、いちばんの特徴はどこにあるとお考えですか？

**最首** 「大きな物語」について話す、という部分でしょうか。会計の大きな流れや歴史は、あまりセミナーでは取り上げられないようですね。私はテクニカルな情報のみを提供するのではなく、時間や空間の目線を上げて、IFRS導入という流れの全体像を見てもらうことが重要だと思っています。そうすることで、いま我々がいる時点や場所が見えてくるからです。日本では、会計ビッグバンに始まった変化の着地点がIFRS導入であり、世界では、IFRSという単一の財務報告基準を使う流れへの過渡期です。会計は「あいうえお」のようなもの、すなわち、ビジネスの言語です。そして、IFRSという言語を用いて財務報告を行うようになることは長い目で見ればもう必至です。10年後、20年後には、IFRSが当たり前の世界があるのです。

——今なすべきことは何でしょうか？

**最首** 今が過渡期であることを前提とすれば、「あいうえお」の学習開始はお早めに、ということが言えると思います。言語の習得というのは、時間を掛ければ苦労も少なく済みます。言語の教育は、識字率を上げる活動のようなもので極めて重要ですね。日本では、アビタスさんはその本格的な活動をてがけている貴重な存在です。この分野はビジネスのみならず、社会貢献事業の側面を持っていると思います。このようなIFRSの位置づけについて、関係者の方はすでにどこかで気づいている

ように思いますが、必ずしも行動に移すほどの確信はないのかもしれないですね。様々なコミュニケーションギャップが、確信を揺るがせているように思えます。

——「コミュニケーションギャップ」とはどんなもので、なぜ生まれるのでしょうか？

**最首** 日本におけるIFRS導入の意思決定者である金融庁は、想定しているスケジュールにあわせて準備を促そうといろいろと発信をしています。ただし、日本ではお役所の言葉は非常に重いので、慎重にタイミングや言葉を選んで行っています。新聞も報道の中立性を保ちながら、かつ、正確であろうとするので言葉足らずになります。そういったことから、IFRSの導入をデザインする側の意図が、もう一方の当事者である企業側に伝わり切らず、「まだハッキリ言っていないから待ってよう」という意識につながるという構造があります。それは無理もないことです。そうであれば、全体の背景を知り、この状況が見える我々が、話し手が言外に言っていることも含めて、受け手にお渡しする役割を果たしましょうと、こういう発信を行っているわけです。

たとえば、金融庁は2012年7月に「IFRSへの対応の在り方についてのこれまでの議論（中間論点整理）」を出していて、その中でIFRSの導入にきわめて積極的な姿勢を示しています。しかしご覧になった方はわかるように、それはどうとでも読めるペーパーです。背景と合わせて捉えないと、彼らがどんな意図でこのペーパーをまとめたのかが読み取れないでしょう。

また、IFRSは難しいものと思われている面もありますね。「国際財務報告基準」なんていうと、普通のビジネスパーソンには果てしなく遠い世界と感ずるでしょう。しかし、IFRSは実はシンプルなツールであり、日本の会計基準の方がはるかに複雑です。日本基準を理解できる人に、IFRSが理解できないことはなく、また、教育水準も能力も相対的に高い日本の会計人が使えない



に陥ったものでした。でも、これはどうやら記憶力の問題ではなく学習方法の問題だということがわかってきました。

そこで、学習の重点を少し変えてみました。洋書の参考書はボリュームがとにかくあるので、頭の整理をするためにカードを作ったのです。カードを作るのが目的ではありませんが、そうしないと学習にならなかったのです。

私が受験した当時は日本語のテキストなどありませんでしたから、洋書のテキストを一から読解し、問題を解き、重要だと思われる要素を簡条書きにし、カード化していきました。手製のカードを繰り返し反復学習し、3カ月間、来る日も来る日も続けていきました。最終的には、カードの量は段ボール一箱分にもなりました。しかし、洋書のテキストを読みこなすのは正直いって大変でした。「日本語のテキストがあったら、どんなにかいいだろうか」と幾度ため息をついたかわかりません。こうした受験時代の経験があったからこそ、本校で提案している「日本語でインプット、英語でアウトプット」という学習法を提唱してきました。

今や、国境や語学の壁を意識せずビジネススキルを発揮できる人材でないと、ビジネスのプロフェッショナルとはいえない時代です。高い信頼性という日本人の強み（特性）に加えて、英語＋専門知識を武器に、世界で活躍できるグローバル人材が一人でも増えてくれればこんなに嬉しいことはありません。

ど正直なじめませんでした。一方、米国留学中にも感じていたことですが、英文会計はあまり細かい議論がなく、すんなり入り込めたのです。基本的な会計の考え方や本質的なことだけを学習していけばよいので、それほど負担には感じませんでした。むしろ、現在価値とか時価主義であるとか、当時としては一歩も二歩も先を進んだ知識を吸収できることに魅力を感じました。

8月に入ってからは、他の3科目をいっぺんに学習し始め、3カ月間は学習に没頭しました。

### 日本語でインプット、英語でアウトプット

では、学習方法についてはどうだったかをお話ししましょう。私は、受験までの3カ月間は、1日10時間くらい（あくまでも、“くらい”ですが）を学習に費やす日々でした。

1日10時間として3カ月（90日）で900時間ですから、私の体験からも、だいたい1,000時間くらいの学習時間というのが合格の目安です。

私がCPAを目指した頃は、いまのように注目される資格ではなかったもので、まだCPAの受験専門学校もなく、当然、日本語のテキストもありませんでした。そこで、洋書の参考書を使って学習するしかなく、「Wiley」など厚い洋書テキストを読み進める学習法でした。

学習を開始したばかりの頃は、過去問を片っ端から覚えていきました。しかし、覚えるそばから忘れていくのです。我ながらこんなにも記憶力が弱いのかと自己嫌悪

### USCPA試験合格者の転職先はこんなところ

\*アビタスの受講生によるデータ

年齢	性別	転職先	前職
26歳	女	日系大手自動車メーカー／内部監査	法律事務所／アシスタント
27歳	女	大手税理士法人／国際税務	日系大手メーカー／海外営業
29歳	女	大手税理士法人／国際税務	日系企業／経理
30歳	女	中堅監査法人／監査	法律事務所／アシスタント
30歳	女	大手監査法人／監査	商社系物流会社／貿易事務
31歳	女	外資系大手証券会社／アナリスト	日系金融機関／法人営業
31歳	女	中堅監査法人／監査	外資系IT企業／バックオフィス
32歳	女	日系大手自動車メーカー／経理	日系企業／営業
34歳	女	外資系コンサルティング会社／コンサルタント	日系システム会社／SE
36歳	女	海外会計事務所／会計税務	日系金融機関／法人営業
38歳	女	外資系医薬品メーカー／経理	日系非上場企業／経理
25歳	男	外資系コンサルティング会社／コンサルタント	未就業
27歳	男	日系大手自動車メーカー／経理	日系金融機関／リテール営業
29歳	男	日系大手自動車メーカー／内部監査	未就業
30歳	男	外資系IT企業／営業	外資系IT企業／マーケティング
31歳	男	日系大手自動車メーカー／内部監査	学校法人／教材開発
32歳	男	外資系IT企業／経理	日系企業／経理
33歳	男	Big4 海外会計事務所／会計税務	専門商社／営業
34歳	男	日系大手通信機メーカー／経理	日系企業／経理
36歳	男	日系大手電気メーカー／経理	日系メーカー／経理
40歳	男	日系アパレルメーカー事業部事業部長	日系メーカー／営業

のなら、他国の会計人にも運用することはできません。あれだけ高度な日本基準を使いこなしておいて、どうしてIFRSの導入にそんなに自信がないかな、と思いますね。

## IFRSは「夏休みの宿題」のようなもの

——食わず嫌いの恐怖感のようなものがあるわけですか。

**最首** うまいこと言いますね（笑）。IFRSは、夏休みの宿題みたいなのだとお話することもあります。いまは8月頭くらいの時期で、「強制適用時期の決まる週末まで放っておきます？ やり始めないまでも、まずは中身を開けてみませんか？」というのが私の考えです。小学生らしい対応ではないかも知れませんが（笑）。夏休みの宿題ですから、基本的に内容は一学期の復習で、既に知っていることに関する何かなのです。

日本基準もIFRSも描き出す対象はビジネスです。それを正しく描き出そうとするのですから、それほど違った仕組みにはなりません。宿題の中身を開けていない人ほど、「何だかとても違うらしい」という風評にドキドキするわけですが、開けて内容をみてしまった人は「なんだ、ほとんど一緒じゃないか」と思うはずです。あまり気づかれていないのは、皆さん宿題をまだ開けていないからかと（笑）。

——先日のセミナーで「IFRSは原則主義だから運用は難しいのでは？」という質問ができましたね。

**最首** 聞いている方にもどこに誤解があるかをクリアにしてくれるとてもよい質問だったと思います。私の答えは「もうすでに原則主義の会計基準を運用したことがあると思いますが、いかがでしたか？」という意地悪な解答でしたが（笑）。日本基準は、元々原則主義の会計基準です。今は細則主義だと見る方もいると思いますが、

### 代表的な(よく出てくる)調整項目

項目	内容
収益認識	実現主義の厳格適用
減価償却方法の変更	定率法→定額法、耐用年数の見直し
のれんの償却の戻し	償却→非償却
有給休暇引当金	未認識→「未払の現物給与」として認識
退職給付引当金	数理計算上の差異のリセット、一括認識
為替換算調整勘定	IFRS移行日におけるリセット
金融資産のオンバランス	ファクタリング、手形割引のオンバランス
税効果の調整	上記調整にともなう、税効果

※その他に、表示上の調整(固定資産の区分計上変更など)が多く出てくる。

IFRSと日本基準、米国基準の世界の三大基準を並べてみたとき、細則主義の極にあるのが米国基準で、日本基準は今でもIFRSに近い位置づけ、原則主義よりです。

例えば、収益認識について、米国基準では業界別に細かくガイドラインが定められています。日本基準では、「実現主義」とされるのみです。一部において、詳細なガイダンスがある領域もありますが、IFRSのほうが多いことも少なくありません。会計ビッグバン以降の日本基準にある実務指針も、米国基準のような詳細なガイドラインではありません。

会計はビジネスを表現するための道具、言語として作られたものです。クリエイティブに進化を続けるビジネスを、抽象的な概念によって、秩序ある表現に変換していくのが会計の本質的な機能であり、そこが運用上も一番力を要するところです。日本の実務家たちは抽象性の高い、原則主義の日本基準でこれを行ってきたわけですから、同じような性質のIFRSが運用できないということはありません。

## 着地点を先に見てしまおう

——IFRS対応は、実は対応すべきポイントはそれほど多くない、ということも先日もお話いただきました。それを理解するには、開示資料からアプローチすることが有効ということでしたね。

**最首** 昨年、IFRSベースの開示ドラフトが簡単にできあがるソフト(IFRS開示シュミレーター)を安価でリリースしました。ある種の食わず嫌いを払しょくするには、できあがりを見てもらい、たいしたことないと実感してもらうのが一番考えたのです。このソフトのアイデアはある会社で「社長に簡単にIFRSの対応について説明できるものが欲しい」という話があり、その要望に応えてドラフトをつくったのがきっかけです。極めて好評で、完成品ができてみると、実は経理側からもよくわかっていなかったという感想が出ました（笑）。

抽象的で見えにくいものというのは、誰でも怖いものです。とても自然なことですね。そのいちばんの処方箋は、そのものを知ることだと思うのです。

——実際にシミュレーターで見てみると、どんなことがわかるのですか？

**最首** その会社における着地点が見えてきます。30分ほどの作業で開示ドラフトができます。会計処理側からアプローチしていくと、開示はある程度決まった段階で、ということになりがちです。そうすると、抽象的なことをやる期間、成果物の見えない期間が長くなります。こ

のシミュレーターでは、全て決まっていなくても、仮決めでドラフトをつくることも可能ですし、クリック1つで改訂版をつくれますから、いつでも先に完成イメージを見ることが可能なのです。出来上りのイメージが見えていると、プロジェクトもスムーズに進むように思えます。

## IFRS=ユニバーサルデザインの会計基準

——IFRSのほうがわかりやすい面もありますか。

**最首** はい。シンプルですから。IFRSは、世界中で文化も言語も商慣習も全く異なる人たちが使える、いわばユニバーサルデザインなのです。我々はとかくカスタマイズを好みがちですが、最近はそのだけではうまくいかないこともあるのです。海外とのビジネスも相当出てきていますから、コミュニケーション上の便宜も大切になってきたのです。

IFRSの世界での採用の最終的なトリガーになったのは、リーマンショックですね。国境を越えての影響連鎖を自国のみに対処では抑えきれず、全体で手をうたなければならないことを世界中の首脳が認識しました。その際、情報開示が国毎にバラバラでは全体の状況が把握しにくいことがわかりました。そして、G20で会計基準の統一についての合意がなされることになったのが2008年です。この合意の各国における履行が今の流れにつながっているのです。会計という言語は、比較的使われている用語も限定的ですし、基本的に数字の世界ですから共通化しやすい。それにずいぶん昔から取り組んで来たのがIASBの前身組織です。IFRSは30年近く、基準はできたけどユーザーはゼロという不遇の会計基準でしたが、2001年にEUが国家統合のプロセスの中で会計共通基盤として、IFRSを選択したのが転換点になりました。EUが使うことになり、IFRSはいきなり20以上のユーザー国を得て、その瞬間に世界で最も使われている会計基準となったわけです（笑）。その後、EUが使うなら、ユーザーが多い基準なら、と採用国が増え、世界に広がっていったわけです。

そういった大きな物語の中に我々がいるとしたら、使うか使わないかという議論を続けるのではなく、使うことを前提にそれをより使いやすいものにするために意見を発信していくという視点を忘れてはならないと思います。EUは最初のユーザーとして、IFRSの内容に多くの意見発信をし、その内容がIFRSに取り込まれました。比較的最近導入した、中国等の会計制度途上国では、現場の運用能力が追いつかずIFRSを使いきれいでませ

ん。彼らはそのような事情を発信し、IFRSを途上国でも使いやすいものとするための提言をしています。様々な意見が出され、改良されながらユニバーサルデザインは完成されていくのです。IFRSは、各国での採用期は終わり、改良フェーズに移ってきています。実は、我々ももう一部これに参加しています。純利益をなくすという議論については、これは日本を含む説得的な意見により残すことになりました。IFRS9における持合株の特例扱いは、通称「ジャパン・アmendメント」と呼ばれる完全に日本発の改正です。最初は持合株という概念が理解されにくかったようですが、ASBJ等が丁寧に説明していった結果、今は英語で「戦略保有株式(ストラテジック・ホールディング・ストックス)」として認知されています。日本企業が株式の持ち合いをするのは、長期的な連携のための一つの知恵であり、ある種の運命共同体性を示すことで関係を強固なものとし、保険的な意味合いもある——そう言語化していったことで概念が取り込まれていったわけです。このように文化的な背景が異なる相手にも伝わるように議論するということは、ユニバーサルデザイン設計の議論のルールでしょうね。

## 自分のオリジナルを深めるチャンス

——2013年は、日本がユニバーサルデザイン設計の輪により入っていく年にしていただきたいですね。

**最首** そうですね。そのためにたくさんユーザーに出てきていただきたいですね。日本企業にはできる力があるのだから、運用の積み重ねから出てくる知恵、議論がIFRSの改良につながるポテンシャルを大いに持っている。だから、積極的にやるべきだとも思います。世界は日本企業の参加を、フィードバックを待ち望んでいるとも言えるでしょう。会計人にとっては、面白い時代だし、やっただけ見えてくるものがありますね。

最後にアビタスさんで学ばれている方に向けてですが、IFRSでもUSCPAでも、学ぶものの背景にあるものに関心を払うことを私は強くオススメします。それは、スキルを超えたところでの視野を広げてくれるからです。国際的な資格や知識に関して、実践を伴い、実感を持ちつつ、視野を広げていくというのは極めてよい学び方です。学んだ知識を使ってゆく中で、オリジナルな体験が深まり、自分自身のオリジナルな価値につながっていきます。それは必ず、楽しいキャリアパス、楽しい人生につながっていきますよ。

——本日はありがとうございました。

(聞き手・アビタス法人研修部 伊達裕史)

# 公開講座・イベントスケジュール

下記以外にも各種講座・イベントを開催しています。最新の情報はアビタスWebサイトをご覧ください。

**2/6(水) 9:00~17:00** セミナー

『**リスクベース監査と内部監査の効率化にむけて**』

- ・海外子会社の監査対応について
- ・内部監査の優先課題とソリューション
- ・リスクベース監査計画の策定手法と課題

■会場・アビタス八重洲校 ■お問合せ先・法人統括グループ 担当 伊達 03-3299-3130 date@abitus.co.jp

**1/23(水)・25(金)** 無料相談会

『**内部監査業務無料相談会**』 ※先着 6社 6名様

①16:00~17:00  
②17:15~18:15  
③18:30~19:30

少人数体制で監査対象領域の全てをカバーできていない、日々の業務に手一杯で部門員の育成に手が回らない等、実務上のちょっとした悩みについて、経験豊富な相談員がアドバイス致します。

相談員：田原 中男 氏 BMD リサーチ代表 CIA (公認内部監査人)

■会場・アビタス八重洲校 ■お問合せ先・法人統括グループ 担当 伊達 03-3299-3130 date@abitus.co.jp

**3/3(日)** 検 定

『**第14回IFRS検定試験**』

ICAEW が実施する IFRS Certificate の日本語試験  
設問数 60 問 (マークシート形式) 試験時間 120 分



■会場・東京、大阪 ■お問合せ先・公式 Web サイト <http://www.ifrs-kentei.com>

新刊情報

## グローバルキャリアをめざせ！ USCPA 米国公認会計士 合格へのパスポート

(監修) 金児 昭氏 (著) 三輪 豊明

最新の USCPA 試験制度や受験手続、  
資格取得後のキャリアアップ情報、  
最短・一発合格するための秘訣を掲載！

全国の書店・  
amazon・  
インターネットで  
発売中！

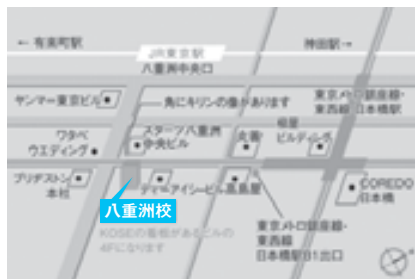


出版社：税務経理協会  
定価：1000 円 / ISBN：978-4419059231

### 新宿本校



### 八重洲校



### 大阪校



### アビタス通信 Vol.26 2013年1月31日発行

発行——株式会社アビタス  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-1-1 新宿メインズタワー 15F  
発行人——三輪豊明  
編集担当——広報・笹原  
abitus@abitus.co.jp TEL 03-3299-3223

本誌よりの無断転載・記載を禁ず

### アビタス・ネットワーク

【新宿】 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-1-1 新宿メインズタワー 15F  
TEL 03-3299-3330 FAX 03-3299-3777  
【八重洲】 〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント 4F  
TEL 03-3278-8800 FAX 03-3278-8801  
【大阪】 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 2-5-2 新サンケイビル 8F  
TEL 06-6341-1020 FAX 06-6341-1088